

編集後記

私の職場は東北大といっても茨城県の大洗という場所にあります。茨城と言えばこの分野の方にとっては原子力研究開発機構が頭に浮かぶと思われそうですが、常陽やJMTR（材料試験炉）といった実験用原子炉の在る敷地内に金属材料研究所の出先機関（量子エネルギー材料科学国際研究センター）があり、1969年から全国共同利用施設として運営されています。少し誌面をお借りして宣伝させていただくと、ここでは全国の大学や独立行政法人等の研究者が、JMTRで様々な材料を中性子照射や、照射後試験を行っており、年間のべ約1000人の研究者が来所しております。本学会誌読者のごく一部はすでにご存じのことでしょう。大洗への東京からのアクセスは、常磐線（これがめっぽう悪天候に弱い）で水戸まで特急で70分、水戸から大洗鹿島線というローカル路線のディーゼル列車に揺られること約15分で大洗の駅に到着する。そこからさらにタクシーで20分程走ると大洗の原子力研究開発機構に到着します。

大洗の名物と言えば冬場はあんこう鍋、ちょっと前までは阪神タイガース→ニューヨークヤンキースの井川、あと

は太平洋の荒波を受けながらのサーフィンと海産物などで、高速道路を飛ばして都心から癒しの週末を求めてドライブに訪れる観光客も多いリゾート地です。ここまで読まれて、ちょっと大洗の金研に行ってみたいな？とか大洗に観光にでも行くかな？と思われた方が1割程でもいてもらえると思えば編集委員を務めさせていただいた甲斐もあったと思います。

学生の皆さんは「うちの研究室分野違いだし…」などと思われたかもしれませんが、8月の第一週に大学院生を対象に「夏の学校」も開催しており、旅費支給で講義や実習が受けられる行事もありますので、奮ってご参加ください（今年の参加申し込みは5/11メ切）。上記原子炉の見学や、楽しい懇親会など盛りだくさんです。今年は100年に1度の未曾有の経済危機で学生の皆さんの就職活動が大変かと存じますが、原子力関係の専攻では、大手電力会社が大量採用を行っており他分野よりはゆとりがあるように聞いております。色々な意味で大学も社会も過渡期なのかもしれませんが、皆の努力でより良い社会にするようにしたいものです。（畠山賢彦）

プラズマ・核融合学会役員

会 長	松田慎三郎	副 会 長	三間 園興	本島 修	常務理事	中村 幸男（総務委員長）
理 事	秋山 秀典（企画委員長）		板垣 正文		伊藤 早苗	
	今井 剛（広告委員長）		奥野 健二		加藤 敬（財務委員長）	
	近藤 光昇		笹尾真実子		佐野 史道（出版委員長）	
	寺井 隆幸（編集委員長）		畑山 明聖（広報委員長）		浜口 智志（プログラム委員長）	
監 事	林 康明		森 雅博			
	飯尾 俊二		松尾 慶一			

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 寺井隆幸（東大）

エディター 関子秀樹（九大）、田中雅慶（九大）、福山 淳（京大）、村上匡且（阪大）、室賀健夫（核融合研）、行村 建（同志社大）

編集委員 石島達夫（名大プラズマナノ）、伊藤清一（広島大）、打田正樹（京大エネ科）、江原真司（東北大工）、大谷寛明（核融合研）、大矢恭久（静大理）、菊池祐介（兵庫県立大）、栗本祐司（シャープ）、後藤基志（核融合研）、齋藤和史（宇都宮大）、酒井 道（京大院工）、榊原 悟（核融合研）、坂本隆一（核融合研）、佐藤 聡（原子力機構）、佐藤杉弥（日本工業大工）、田中照也（核融合研）、田中康規（金沢大）、長友英夫（阪大レーザー研）、浪平隆男（熊大院自然）、畠山賢彦（東北大金研）、花田和明（九大応力研）、濱口真司（核融合研）、林 伸彦（原子力機構）、平田孝道（東京都市大工）、森 道昭（原子力機構関西）、吉川正志（筑波大院数理）、吉田弘樹（岐阜大工）

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第85巻第5号

編集・発行

〒464-0075 名古屋千種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jsof.or.jp URL: <http://www.jsof.or.jp/> 定価1,365円（本体1,300円）

印 刷 株式会社荒川印刷

2009年（平成21年）5月25日

本誌に掲載された寄稿等の著作権は（社）プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月第1火曜日に開かれています。但し、都合により変更になる場合があります。